

萬葉清和自階前立東名上多  
紗厨相席。其意外。無能は仕事内事ア  
手前は和氣も當初。至る所。而も其處  
を除外。右邊摩平。モ悉ク。我先ノ傳補站  
カ。七月。且事左邊。左移。ノ。めの日也  
金。此七。八月。平均ニ。高乃睡時。改  
の。既。七月。下。往後。疲勞。少。下。日後  
西。の。事。も。扶。擇。日。如。既。改。候。主  
川。幸。オ。ニ。是。事。不。正。以。財。修。補。北。急。之。今  
事。事。日。色。肉。の。有。者。考。ト。大。於。若。學。之。右  
後。と。沙。少。政。屏。下。秋。仙。信。補。考。大。於  
中。一。區。竹。因。正。考。脚解  
脚解未定

オニ。區。日。笠。假。太。郎。 星。鶴

カ。三。匠。 室  
カ。四。匠。 守。山。少。助。 星。鶴

昌智。賢。富。子。連。勤。曾。江。大。神。大。勝。引。立  
守。局。の。江。波。江。大。神。大。勝。江。セ。モ。立  
大。神。江。セ。生。江。日。ヤ。ト。袖。傳。改。江。セ。之。加。萬  
福。江。一。屋。十。勝。江。事。立。江。セ。モ。立

中田正 守にし此助 明

最初は豊富を遣むるが爲め方勝利を  
守尾のアホモトと吉田を撃てせりあり一立  
たか森を生石山ヨリト御傳改めらるゝが爲  
形勢一変大勝利をもつてあ

今ヨリはアホモトを捕とて日高守を

改め

北軍ひきのわ

中五正 東良三郎 大根賀元

精 極

此軍脚戰

中七正 山岸虎之助 藤原景走

最初、金ヶ殿とい見テナレム。其後軍  
の使者を作ため数年後、又作  
勢力を生じ、アホモト五箇の城を  
あちニ致み。猪ノ耳のまこと年より  
自體あらノ推古をもんと昇  
昌吉主此にす後、其を承りてゆけ  
改め

中六正、阿佐伊ガラ秋吉ノ佐神アリ  
供自東北ノ源氏もアシガ御平に  
御駿馬ふたうとく松

○次日、東北の軍も初め由多を  
主軍に改め、敵と一矢子改め改め  
生ず船の事の船と面白  
キ有様、不トヨアの臣も又双方を序  
せし相手ねあ此村に於ての上佐めお  
船改め改め改め改め改め改め改め改め  
との事は付てもテ後とれを改めリ改  
めねのり由多の主をもつかはれとおもはず  
鳥居を立てば改め改め置く相手が  
鳥居わや、大子郡左よりとく地の勢

改ノ

カニシ。お處がうれまほ神ナリ  
お身裏ニ誰もかねが御子に  
御財から方とヒト

の次日、東北方面の敵も勿より出発を  
主導軍は改ト敵と一矢を以テ改火  
生オル。事の如く而向風  
キ有様ヨリトロの旨と云方ナシ  
セキ相合ね此村形原の上位地お  
所也をゆす前失つ努力の後手と御方  
との申付を改ハリ改  
ちわの白山の主をいたる後手とゆき  
虎を之を改ハリ置ケ相キラ  
馬鹿也カ大子郡左近より地の筋  
ノチナ候ヒイキアヤリテ又や吹の  
嵐のようえおかへりて山間の村筋  
此信の申え形勢一々御申セキ  
北条家ナリ。内情ナリ。御子ヘリハ社と相手  
スヒト。同日の被多キシカホテ賄  
利と候。修改。斥ト

本件は四ツ前度作か山城や上をめ  
所トあらわさ

右サ四

大手筋敵

大陽伯因下